

平成27年度公益財団法人新宿未来創造財団

第8回理事会 議事録（参考資料）

平成28年3月28日

○永木理事長

これより議事に入ります。議案第28号、公益財団法人新宿未来創造財団平成27年度仮業績係数について、議題に供させていただきます。事務局の説明をお願いします。

(資料に基づく説明省略)

○永木理事長

それではご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

○酒井理事

利用者の満足度が高くなっているのはいいことですし、参加率が下がっているのも高い目標設定によるものということで、その積極的姿勢は大いに評価できると思います。

ただ、よくわからないのが経営効率の改善の人件費の最適配分についてです。自主事業ですが、27年度の達成率が134.84となっていて、26年度も135.13となっていますね。予算規模としては大して変わらないのに、26年度は134で、27年度は135を超えている。27年度も134.84だから、135ということを見ると、27年度予算の立て方がちょっと甘いのではないかと思います。2年続けて130を超えるというのは、普通ではちょっとあり得ないです。これについて、ご説明いただけますでしょうか。

○岡崎経営課長

自主事業における人件費予算についてのご質問ということで説明させていただきます。達成率が非常に高くなっている主な要因としまして、予備費的に計上している人件費がございます。この人件費は、ここ数年手をつけない状況が続いております。結果として、自主事業の人件費執行率が非常に低くなり、対予算比でおさまっている次第です。この点につきましては、28年度に若干見直しをさせていただいておりますので、来年度以降は是正されると思われまます。

○酒井理事

是正とは、どういったものでしょうか。

○岡崎経営課長

予算を直接的に削るということです。

○諏訪事務局次長

フォローさせていただきます。私どもの職員の退職率は比較的高いため、万が一に備えて、契約職員の人件費を予備費的に自主財源に計上しておりました。しかし、途中でご退職された分を、アルバイトの雇用でしのぐなどして執行せずしております。そのような状況ですので、なるべく実態に合わせていこうということで、来年度予算では、この予備費的人件費を削っております。したがって、来年度以降は、135%のような率にはならず、ほかのものと近くなるというふうに判断しております。予備費ではなく、人件費として予備費をつけていたということでございます。

○酒井理事

わかりました。25年度は、101%くらいだった達成率が、2年続けて135くらいまで上がって、それで単位費用の縮減の自主事業が、26年度は176、27年度も145とあり得ないような数字になっていると、利用者数など非常にチャレンジングに身を切るようなこともやっているのに、ここだけ妙に甘く見えてしまうのはもったいないと思います。

○永木理事長

ありがとうございます。お願いします。

○加賀美副理事長

区では執行率が低い場合に補正で減額措置をするのですが、自主事業人件費の執行率が極めて少ないということであれば、補正するという話はあり得る話なのですか。見せ方の問題として、どうなのですか。

○高橋管理担当事務局次長

ただいまご指摘のとおり、補正もあり得るかと思います。ただ、先ほどご説明差し上げましたとおり、この部分は職員の退職補充、あるいは事業拡大等に対応するために、具体的には契約職員4人分で1,500万ほど、人材派遣等で1,200万円ほどを予備費的に計上し

ているものですので、執行状況等を見極めながら、検討してまいりたいと考えております。

○永木理事長

ほかにかがでしょうか。お願いします。

○清水理事

経営効率の改善の単位費用の縮減は、酒井理事がおっしゃっていたように、達成率が高い。かなり緊縮状況で努力されているというのは非常によくわかるのですが、余りにも達成率が高いというのが少々心配になってきます。しかも、参加者・利用者の満足度は向上しているということで、いい結果にはなっているとは思いますが、これほど縮減していることについて、もう少しご説明いただけないでしょうか。

○岡崎経営課長

単位費用の縮減に対する達成率に関するご意見ということで承ります。単位費用は、かかった費用を成果指標で割って算出しています。したがって、参加者が増えるというだけでなく、経費を抑えるとか、収入が上がったとかで収支が小さくなることでも単位費用は下がります。経費的部分、収入部分、成果指標の変数で決まるものになります。

事業経費抑制を改善としているけれども、それで事業がしっかりできているかどうかということで、そうでない部分もないわけではありません。しかし、それ以上に、例えば受託事業の学校施設開放の利用者が約1万2,000人増えたことだったり、補助事業の舞台芸術鑑賞の収入が改善されたりということで、単位費用が下がったことが大きな要因です。さまざまな要素が重なって、よい結果となっているということでございます。

○清水理事

わかりました。利用者数の目標値を高く設定したことで、増加率は下がっているけれども、実質的な利用者数は増加しているということで理解させていただきます。

○小柳常務理事（事務局長）

1つ説明申し上げたいのは、達成率の係数はまだ精査しきれていない部分もあるということです。先ほど170という数字も出ましたが、評価の段階で115以上のものは、S評価

となります。係数自体を精査することは当然なのですが、1つの事象によって、上がったものをそのまま評価しないような形で、調整はさせていただいております。

○永木理事長

いかがでしょうか。特にご発言がなければ、質疑を終了させていただきます。

議案第28号、公益財団法人新宿未来創造財団平成27年度仮業績係数を原案どおり決定するというので、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○永木理事長

異議なしと認め、議案第28号は原案どおり決定させていただきます。

本日予定の議案は以上ですが、皆様方から御意見等ございますか。特にないようでしたら、これで終了させていただきます。次に事務局より報告事項がございます。

<以下、報告事項等は省略>